

# 発表事項

- 1 平成30事業年度事業状況及び決算
  - (1) 一般会計
  - (2) 後期高齢者医療特別会計等
- 2 社会保険診療報酬支払基金定款の一部変更
- 3 令和元年6月審査委員改選の状況
- 4 平成30年度診療報酬等確定状況（平成30年4月診療分～平成31年3月診療分）
- 5 平成30年度の審査状況（平成30年5月審査分～平成31年4月審査分）
- 6 平成31年4月審査分の審査状況

## **7 平成30年度特別審査委員会の取扱状況（平成30年5月審査分～平成31年4月審査分）**

- 8 令和元年6月審査分の特別審査委員会取扱状況
- 9 令和元年度第2期（5月）分の後期高齢者支援金等収納状況

## 特別審査委員会の審査対象明細書

平成30年10月1日付けで厚生労働省告示が改正され、平成30年10月診療分（11月審査）から審査対象明細書について次のとおり拡大された。

- 審査対象明細書の合計点数を「40万点」から「38万点」に引下げ
- 新たに、合計点数に関わらず、肺移植、心移植、肝移植に係る手術を含む診療に係るものを対象に追加

### 【参考：特別審査委員会対象明細書】

- 医科診療報酬明細書のうち合計点数（心・脈管に係る手術を含む診療に係るものについては特定保険医療材料に係る点数を除いた合計点数）が38万点以上のもの。
- 合計点数に関わらず、肺移植、心移植、肝移植に係る手術を含む診療に係るもの。
- 歯科診療に係る診療報酬明細書のうち合計点数が20万点以上のもの。
- 診療報酬明細書の全件数のうち漢方製剤の処方及び調剤を含む診療報酬明細書の件数が過半数を占める医療機関における漢方製剤の処方及び調剤を含む入院外の診療報酬明細書のうち、投薬料の点数が4千点以上のもの。

# 平成30年度審査分の受付状況

## 受付状況

	件数	対前年度伸び率
合計	<b>39,347件</b> (36,977件 <sup>注</sup> )	<b>+ 16.0%</b> (+9.0% <sup>注</sup> )
医科	37,654件 (35,284件 <sup>注</sup> )	+ 16.2% (+8.9% <sup>注</sup> )
歯科	1,236件	+ 19.8%
漢方	457件	▲ 9.5%
DPC(再掲)	20,778件	+ 17.4%

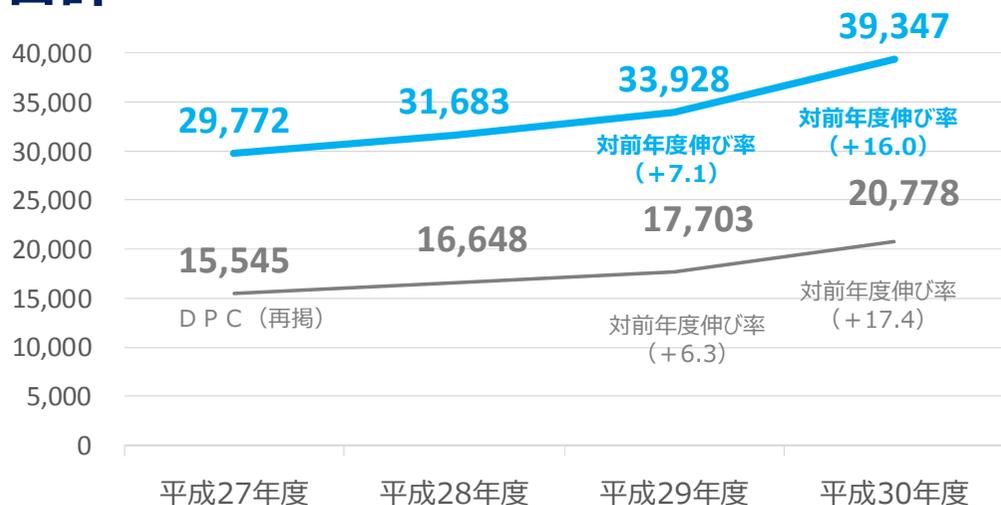
注) 表中の（ ）内の数値は、従来の40万点以上の数値を示しています

- 医科は主なものとして、血液疾患の血友病 A・B に伴う「遺伝子組換え血液凝固因子剤」や急性リンパ性白血病に伴う「抗悪性腫瘍剤」及び脊髄性筋萎縮症に伴う「脊髄性筋萎縮症治療剤」や超低出生体重児に伴う「特定入院料（包括）」を含むレセプトが増加
- 歯科は平成30年4月の診療報酬改定により「顎変形症」に係る手術が含まれるレセプトが増加
- 漢方は該当する医療機関の受付件数が減少

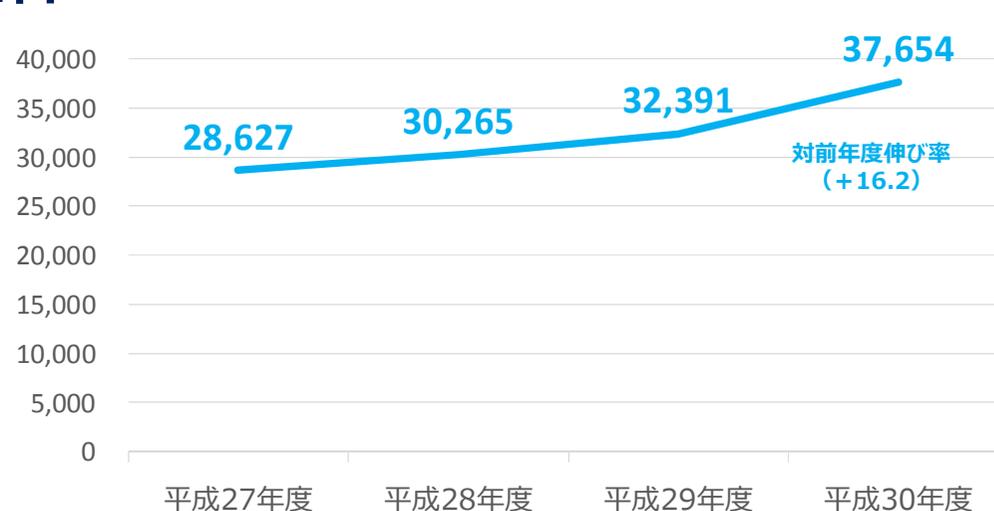
# 年度別受付状況

単位：件（カッコ内は%）

## 合計



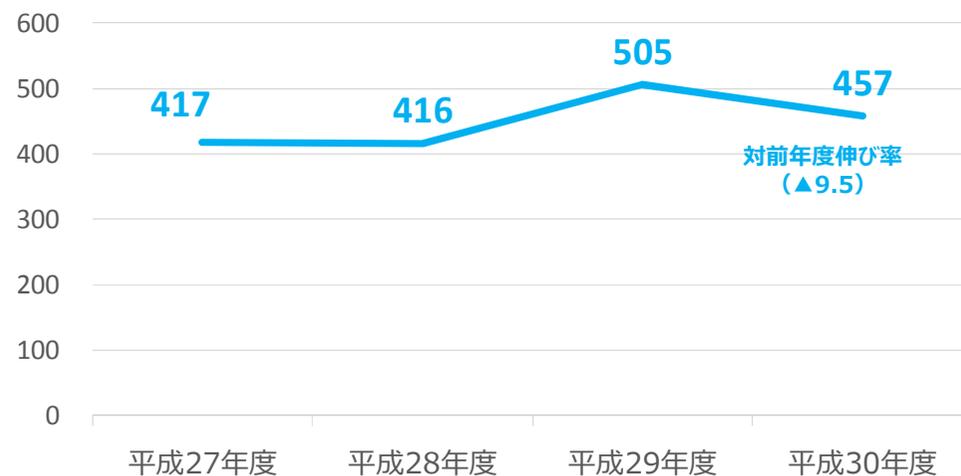
## 医科



## 歯科



## 漢方

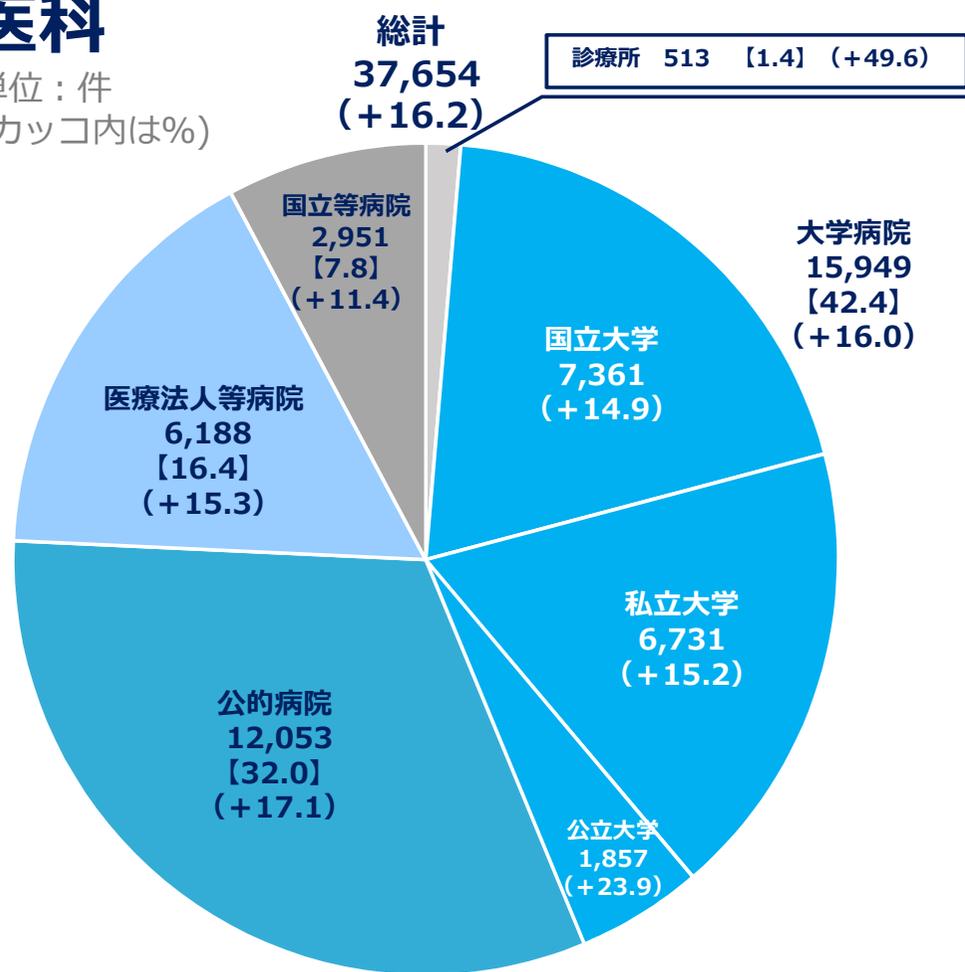


# 経営主体別受付状況

- 経営主体別構成割合では、医科・歯科共に**大学病院**の割合が最も高い
- 医科**
  - 大学病院全体では前年度に比べ**16.0%**の増加、うち公立大学病院が**23.9%**の増加
- 歯科**
  - 大学病院全体では前年度に比べ**13.4%**の増加、うち公立大学病院が**28.6%**の増加

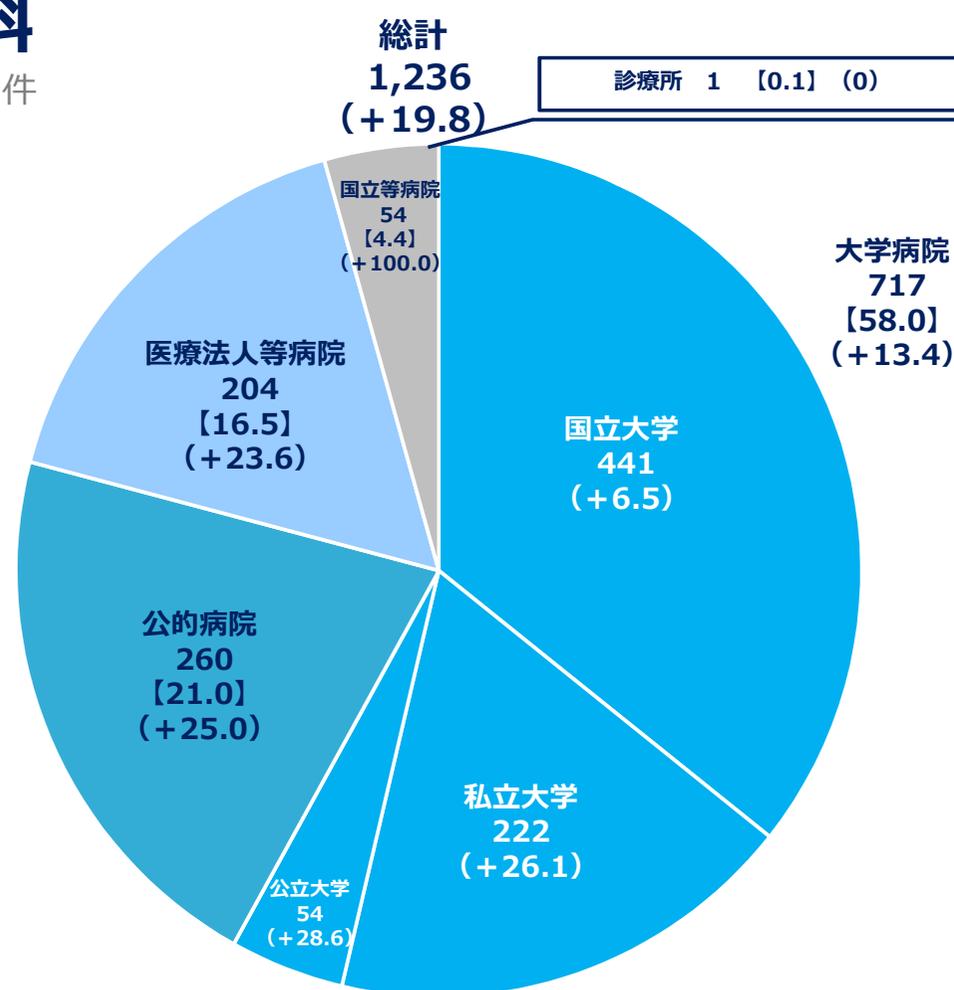
## 医科

単位：件  
(カッコ内は%)



## 歯科

単位：件

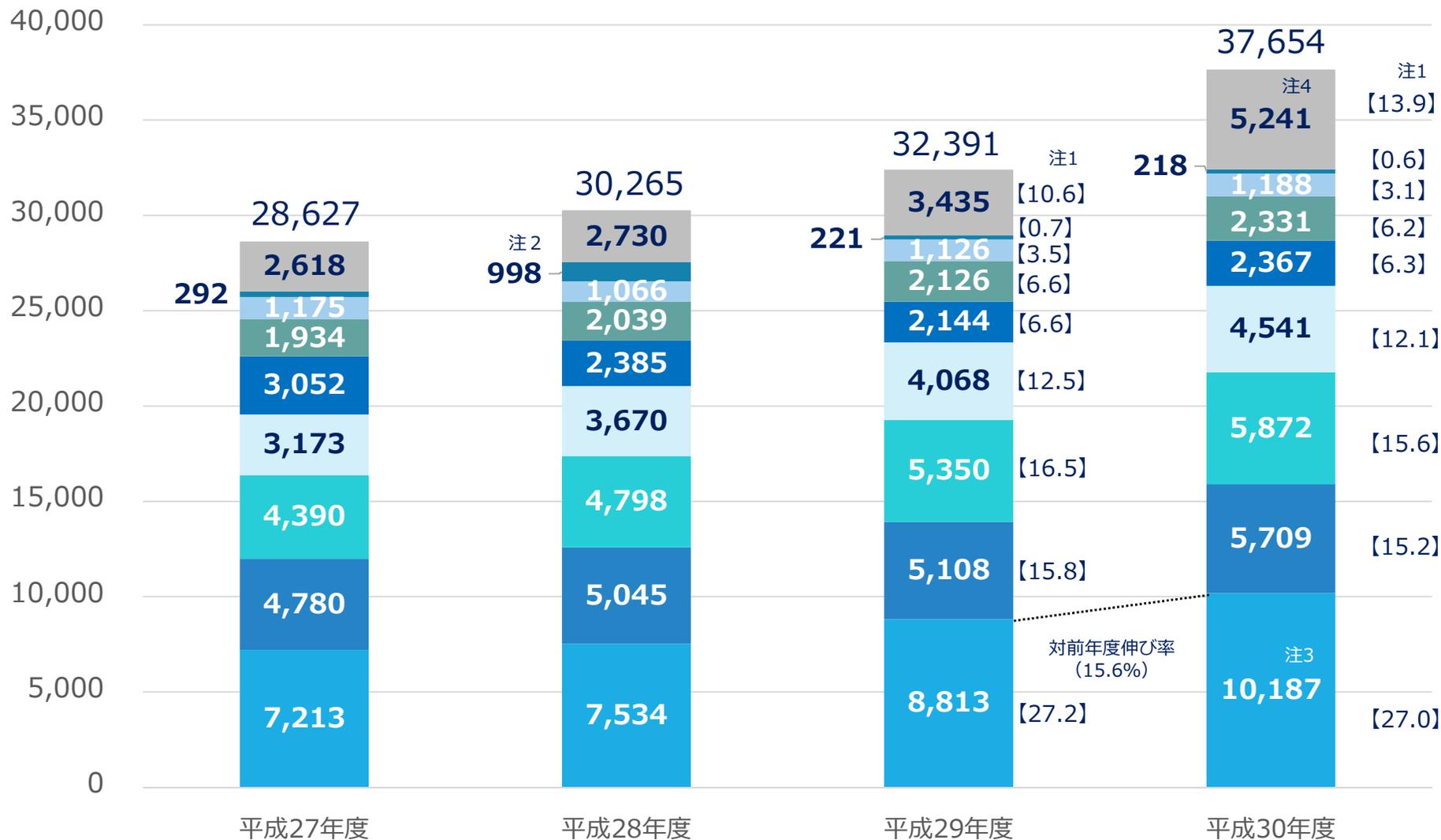


注) 【 】は構成割合、( )は対前年度伸び率である

# 医科の主たる疾患別受付状況の推移

- 血液疾患は10,187件で、前年度に比べて15.6%の増加
- 呼吸器疾患以外の疾患については前年度に比べ増加

単位：件



## 凡例

- その他
- 呼吸器疾患
- 腎臓疾患
- 先天性代謝疾患
- 消化器疾患
- 運動器疾患
- 循環器疾患
- 脳疾患
- 血液疾患

注1) 図中の【 】内の数値は、合計に対する各数値の構成割合を示している。

注2) 呼吸器疾患は、オプジーボが保険導入されたことに伴い件数が増加。

注3) 血液疾患は、主に「血友病A・B」による遺伝子組換え血液凝固因子剤や「急性リンパ性白血病」による抗悪性腫瘍剤の請求が増加。

注4) その他の疾患は、主に「脊髄性筋萎縮症」による脊髄性筋萎縮症治療剤や「超低出生体重児」による特定入院料の請求が増加。

# 平成30年度審査分の審査状況

## 審査状況

	点数	対前年度伸び率
請求点数	197億1,970万点（189億848万点 <sup>注</sup> ）	+18.1%（13.2% <sup>注</sup> ）
査定点数	3億 998万点（ 3億286万点 <sup>注</sup> ）	+2.0%（▲0.4% <sup>注</sup> ）
請求1万点当たり査定点数 （査定点数／請求点数×10,000）		
合計	157.2点（160.2点 <sup>注</sup> ）	▲13.6%（▲12.0% <sup>注</sup> ）
医科	156.8点（159.8点 <sup>注</sup> ）	▲13.4%（▲11.8% <sup>注</sup> ）
歯科	189.5点	▲26.6%
漢方	12.8点	▲43.4%
DPC（再掲）	194.3点	+3.2%

注）表中の（ ）内の数値は、従来の40万点以上の数値を示しています

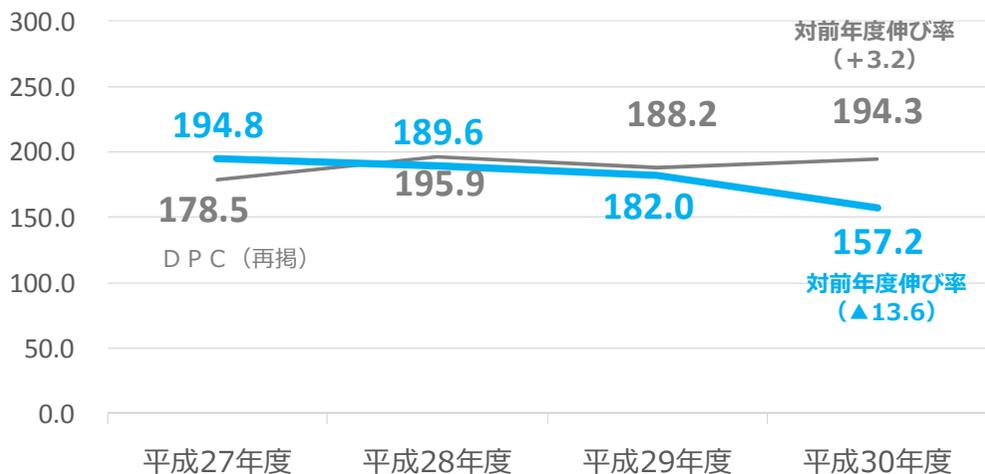
- 受付件数の増加に伴い請求点数も増加しているが、その中でも上位3つの疾患は、血液疾患、脳疾患及び循環器疾患となっている  
 なお、平成30年度の伸び率では血液疾患やその他の疾患に該当する脊髄性筋萎縮症が増加
- 請求1万点当たりの対前年度伸び率が減少となった要因として
  - 医科は血液疾患や脊髄性筋萎縮症による医薬品が請求点数の大部分を占めるレセプト及び超低出生体重児の特定入院料（包括）を含むレセプトが増加しているが、当該部分の査定は少ないことから全体として減少
  - 歯科は口腔内の悪性腫瘍に対する手術料の査定が減少
  - 漢方は僅かな査定となっているが、受付件数が少ないため伸び率に大きく影響

# 年度別請求1万点当たり原審査査定点数の状況

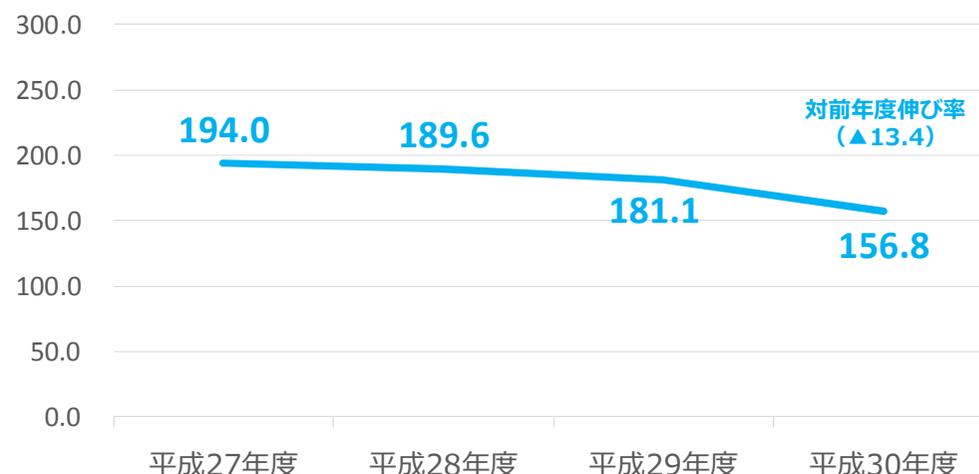
単位：点（カッコ内は%）

- 直近4年間の請求1万点当たり原審査査定点数は、合計で減少傾向となっている

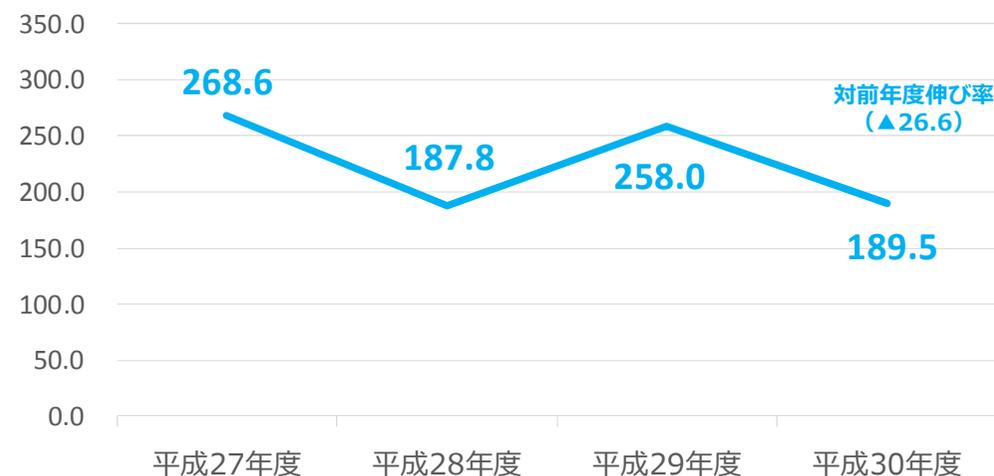
## 合計



## 医科



## 歯科



## 漢方



# 本部審査拡大の状況

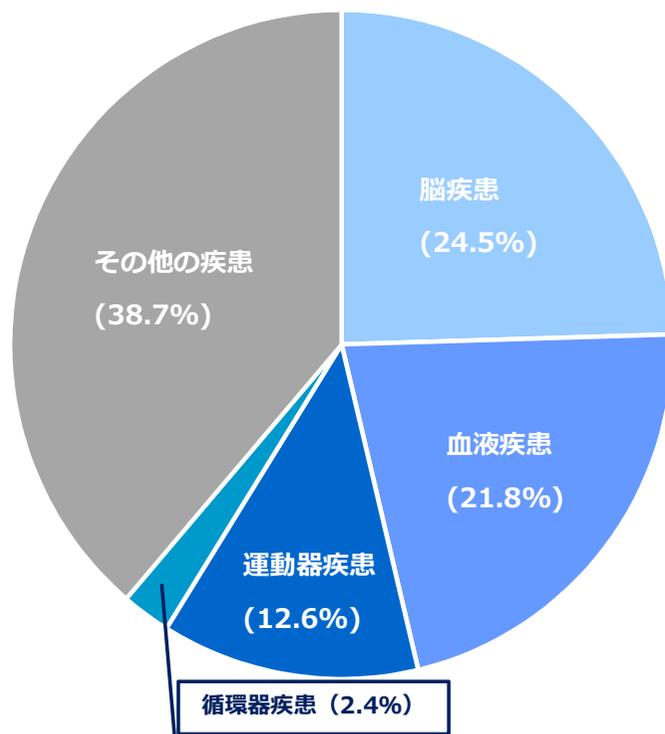
## 検証結果（検証データ期間（平成30年11月審査～平成31年4月審査分））

本部審査対象区分	受付件数	請求点数	査定点数	請求1万点当たり査定点数
38万点～40万点	2,367 <sup>(件)</sup>	809,206,639 <sup>(点)</sup>	7,098,902 <sup>(点)</sup>	87.7 <sup>(点)</sup>
移植分 <sup>(注1)</sup>	3	2,013,571	26,075	129.5
合計	2,370 <sup>(注2)</sup> (395)	811,220,210 (135,203,368 <sup>注2</sup> )	7,124,977 (1,187,496 <sup>注2</sup> )	87.8

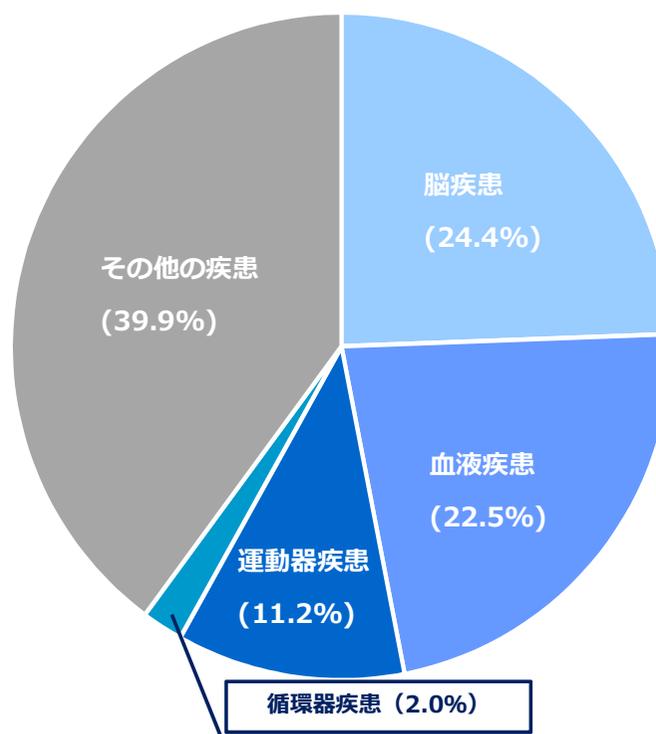
注1) 拡大に伴い新たに審査対象となった移植分

注2) 表中の（ ）内の数値は、月平均の数値を示しています

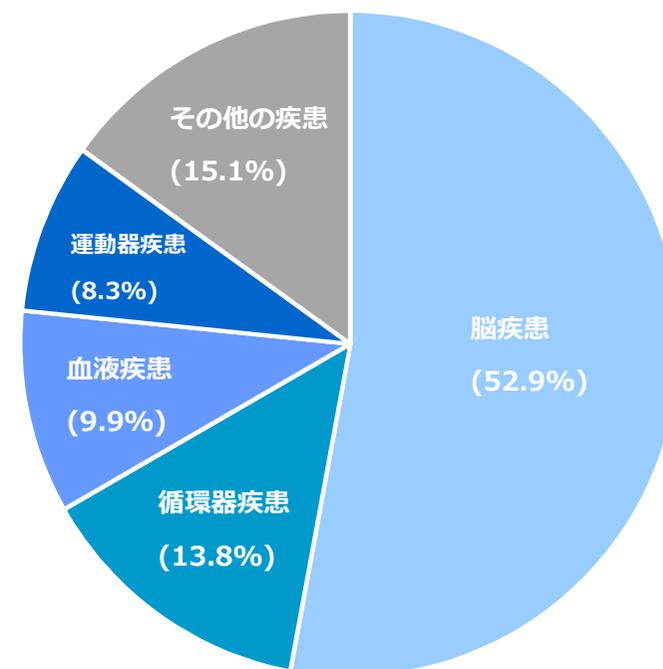
### 受付件数の内訳



### 請求点数の内訳



### 査定点数の内訳



## 本部審査拡大の状況

### ■ 受付状況のポイント

- 受付件数に対する拡大分の件数は、月平均395件で11.0%<sup>注</sup>の割合となっている
- 受付件数の内訳は脳疾患（24.5%）、血液疾患（21.8%）などとなっている
- 脳疾患のうち約4割がくも膜下出血による手術等を実施している患者
- 血液疾患のうち約4割が血友病A・Bに伴う「遺伝子組換え血液凝固因子剤」を投与している入院外の患者
- その他の疾患のうち約6割が特定入院料（包括）を請求している超低出生体重児の患者

### ■ 審査状況のポイント

- 請求点数の内訳は、脳疾患（24.4%）、血液疾患（22.5%）などとなっている
- 査定点数の内訳は、脳疾患（52.9%）が多い状況である
- 脳疾患の査定は適応外の手術や特定保険医療材料の過剰使用の査定が多い状況である
- 受付件数及び請求点数が高い血液疾患では、医薬品が請求点数の大部分を占める入院外レセプトが多く、超低出生体重児では、特定入院料（包括）を含むレセプトが多いが、当該部分の査定は少ない状況となっている

注）平成30年11月審査～平成31年4月審査に係る月平均受付件数（3,572件）との割合